

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4 7	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Effects of stress and alcohol on subjective state in humans ヒトでストレスとアルコールが主観的状态に与える効果	
執筆者	
Soderpalm AH, De Wit H	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2002 ;26(6):818-26.	
キーワード	
ストレス、アルコール、視床下部-下垂体-副腎軸、Trier Social Stress テスト	
要 旨	
<p> ストレスと視床下部-下垂体-副腎軸が薬物摂取行動や薬物依存と相互作用があることが多く報告されている。実験動物とアルコール飲酒者の研究により急激または慢性的なストレスはアルコールの摂取を増加させることが報告されている。アルコール摂取量増加の一つのメカニズムとしてストレスが何らかのメカニズムを通して、薬により誘導された主観的状态を変化させ、アルコールの強化的性質を促進させる可能性が考えられる。本研究では急激な社会的ストレスがエタノールへの主観的評価を変化させるかについての検討を、人を用いて行った。ストレスは Trier Social Stress テスト (計算負荷でコルチゾールレベルが上昇する) の改良編を用いた。20 人の男性被験者を 2 つの実験状況で行った。エタノール又はプラセボ飲料を摂取する前に Trier Social Stress テストを 1 回負荷した。コントロールとしてテスト負荷することなく行った。11 人の被験者は両セッションでエタノールを与えた。他 9 人には両セッションでプラセボを与えた。主な依存的測定は心理状態の自己報告質問表により行った。さらにストレス負荷の影響については、唾液のコルチゾールレベルを測定することにより検討した。その結果、ストレスのみでは刺激に関連した主観的効果を生みだした。エタノールを摂取したグループでストレス負荷は鎮静様効果があり、刺激効果を減少させた。一方、高投与量のエタノールでアルコールはストレス鎮静効果を増加させ、更に多くのアルコールを求める効果は観察されなかった。しかし、ある被験者ではストレス後の鎮静効果の増加が観察され、これがより多くアルコールを摂取する傾向との何らかの関連性を示唆している。 </p>	